

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	【長野県～100年後の未来へと繋ぐ】プロジェクト③ OOOKA 株式会社への第一歩
事業主体 (連絡先)	NPO法人元気お届け隊 千曲市杭瀬下 78 番地 6 E-mail:genkiotodoketai.himawari@gmail.com
事業区分	⑤その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	795,950 円 (うち支援金: 575,000 円)

事業内容

- 1、【2020#大岡を世界の OOOKA にインスタグラムキャンペーン】 7月1日～9月29日
・受賞作品写真審査発表会 10月7日 長野市大岡公民館
- 2、ファームステイモニター体験
9月26日～9月27日 長野市大岡地区棚田・北の屋
- 3、観光DMO構築に向けた勉強会
9月27日 長野市大岡公民館
講師 (株)トリップシード社長 小柳秀吉氏
- 4、銀座 NAGANO での周知活動イベント
「NAGANO の食を楽しもう」 11月22日
- 5、商品開発に向けた勉強会
11月11日 大岡公民館



【「NAGANO の食を楽しもう」イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ① 大岡の更なる知名度アップ
- ② 周辺地域との連携を図る
- ③ 観光で稼げる地域になる
- ④ 地域のあるものを活用する

事業効果

- ① 外国人移住者からも応募があり、海外からのアカウントからも毎日いいね！が付き OOOKA 大岡の周知に大きく前進した。
- ② 首都圏からの体験参加者から好評で、関係・交流人口となっていた。
- ③ リピーターに「体験」と「交流」を軸とした「地域の特徴を生かした広域観光の推進」を図る活動へと繋がった。
- ④ 首都圏のお客様に信州の中山間地域の魅力を伝えることができた。
- ⑤ 地区内のあるものを活用することでふるさとを大切にしている取り組みの促進に繋がった。

※自己評価 【 B 】

【理由】

新型コロナウイルスの影響で計画当初の日程、参加人数が得られなかったが、いずれの事業も好評で次年度への深度化、拡大化に道筋がつけられた。

今後の取り組み

農泊体験型観光で稼げる組織を構築し、株式会社化を目指していきたい。

信州新町や麻績村等周辺の観光協会との連携も深めていく。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	365日大学
事業主体 (連絡先)	365日大学 長野県長野市北条町34-1
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,887,224円 (うち支援金: 3,909,000円)

事業内容

人生の第2周期を、寝たきり、閉じこもりにならず、時代に取り残されたり、孤立化したりせずに、イキイキと毎日の生活を送ることができるようにするために、次の事業内容を実施しました。

1. Zoom を活用したオンライン講座
2. 農業支援
3. 認知症予防特別講座
4. サキベジ健康特別講座
5. ボイスフィットネス特別講座
6. 地附山トレッキング

事業効果

1. シニアが時代に取り残されていない
2. シニアの生活のリズムが整い、孤独に陥らない
3. シニアに再びチャレンジ精神が芽生えた
4. 年齢を忘れ、若返る
5. NHK『イブニング信州』放送(2020年6月23日 放映・約9分間)、SBC『ずくだせテレビ』放送(2020年11月9日放映・約30分間)
6. 耕作放棄地の活用につながった
7. 若い世代への刺激

今後の取り組み

1. 平日オンライン (Zoom 使用) 講座の充実・拡大
2. 農業支援の充実・拡大 (脱炭素農業推進)
3. 365日大学のPR、会員のキャリア活用のために新たな手法への取り組み
4. 脱炭素情報発信を下記的手段を活用して推進
5. 脱炭素アイデアコンテストの実施
6. 脱炭素社会啓蒙絵本の発行
7. 会員の「人生、午後4時マイストーリー」本の発行



【オンライン講座の様子】

【目標・ねらい】

- ①シニアのIT難民化阻止
- ②シニアの孤立化防止
- ③コロナ禍によるシニアの益々のフレイル化阻止
- ④耕作放棄地拡大阻止

※自己評価【A】

【理由】

- ・シニア (平均年齢 72 歳) の人がオンライン Zoom を活用して学ぶという世界が可能とは誰も信じていなかった。が、“やればできる”で実現し、シニアは決して社会のお荷物ではなく、これからシニアが活躍できることを実現させた
- ・国の将来を考えた場合、シニアがいつまでも健康でいられることがすべてプラスになることを、365日大学が小規模とはいえ、モデルになった
- ・365日大学の会員のようにになりたいという同世代の人々やそういう風に年をとっていきたくないと誰にも夢を与えることができた

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	豊野町復興事業
事業主体 (連絡先)	長野市商工会豊野支部 支部長 中村智雄 TEL026-257-2080
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	791,342円 (うち支援金: 517,000円)

事業内容

1. 防災展 (写真パネル展)

実施時期: 11月16日(月)～12月11日(金) (豊野公民館)。12月14日(月)～令和3年1月29日(金) (商工会館) 写真パネル展を通じ、豊野地域の危険箇所・避難場所等について改めて確認いただいた。

2. イルミネーション設置事業

実施期間: 12月6日(日)～令和3年1月31日(日)
実施場所: 市道豊野沖線の両側沿道 (約1km)

事業内容: 被災した住宅が多く立ち並ぶ沿線の街路樹に地域住民や各種団体等と連携してイルミネーションの設置を行った。暗かった沿線が明るく灯り、多くの住民に喜んでいただき、希望の光を届けることができた。



【イルミネーション設置作業】

【目標・ねらい】

- ① 防災意識を高めていただく。
- ② イルミネーションを通じ、復旧・復興に向け、エールを送ると共に希望の光を届ける。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 防災展 (写真パネル展)

両会場合わせ1,400人ほどの来館者があった。改めて水害の恐ろしさを知り、防災意識を高めていただいた。

2. イルミネーション設置事業

設置作業は地域住民を含め約100人近くに協力をもらった。イルミネーションは、被災した地域住民や域外からの通勤者等延べ約10,000人以上の人達をご覧になり、多くの方々から感謝の言葉をいただいた。イルミネーションは、人の心を和ます力があり、継続を望む声を多くいただいた。

※自己評価 【 B 】

【理由】防災展は、多くの人に関心を持って見ていただき、防災意識を高めていただいた。イルミネーションは、地域住民の協力を得ながら設置し、多くの人々の心に元気と勇気を届けられた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

防災展は、状況に応じ開催を続けていきたい。また、イルミネーション事業は、今後も地域と一緒に実行委員会を組織し、豊野町の事業として継続していきたい。設置エリアも広げていきたいと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	心身を守る防災アロマ・プロジェクト	
事業主体 (連絡先)	長野アロマ活動アソシエーション 長野県長野市大豆島1384-1	
事業区分	⑧その他の地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	709,419円	(うち支援金: 564,000円)

事業内容

コロナの影響で先行き不透明だったため、当初予定していた地域の復興支援を目的としたイベント事業は、感染拡大回避の観点から中止とした。そして、個々の日頃からの防災意識の向上と、災害後やコロナ禍における心身の健康維持に防災アロマを役立て頂くことを主な目的に変更。令和2年度をそのための基盤構築の年と捉え、以下に内容を変更し事業を実施した。

- ①防災アロマセミナーの対面とオンライン体制づくり
 - ・セミナー内容企画、及び教材の作成
 - ・動画制作、オンライン導入の整備
- ②セミナー開催 (計4回: 11/29、1/31、2/4、2/13)
- ③新規ホームページ制作
- ④ディフューザー貸出 (芳香機能によるストレス緩和)



【防災アロマハンドブック】

事業効果

- ①セミナー開催による防災アロマの普及
 - ・参加人数 計28名 (令和2年度)
 - ・予約人数 計38名 (令和3年4月以降 開催予定)
- ②オンライン導入によるセミナー参加者の拡充
令和2年度としては、度々の事業内容や日程変更により実績はあげられなかった。しかしコロナ禍を受けたオンライン導入により、対面セミナーの参加が困難な介護中や障がいのある方などが参加しやすい環境を整えられたことで参加者の拡充に繋がり、今年度の事業終了後も継続してセミナー参加予約が入っている。
- ③ディフューザーの貸出及び精油の提供
 - ・貸出数 計9名 (令和2年7月～令和3年2月)
 - ・予約数 計4名 (令和3年3月以降～)

- ①防災アロマの普及による防災意識の啓発
- ②精油の芳香機能による心身のケア
- ③セミナー参加者の拡充
- ④防災アロマ関連の情報発信

【目標・ねらい】

※自己評価 【 A 】

【理由】
当初の事業内容は変更になったが、結果的には、セミナー事業の体制が整ったことで、今後の事業の方向性が定まり、防災アロマの普及を主軸とした継続的な活動の見通しが立ったため。

今後の取り組み

重点テーマの「防災」を掲げた事業だったこともあり、災害もコロナも想定外に発生するものである事を考えると、その中でいかに臨機応変に対応していくかが、今後の防災と当団体の事業の継続も含めた対応力にも繋がると捉え、何度も事業内容を検討した。その中で、今年度に今後繋がる体制を整えることができたため、次年度も小規模のセミナーを継続し、丁寧な防災アロマの普及に取り組む。そして、今だからこそ求められる時代の流れに合わせた需要を的確に吸い上げ、防災アロマを主軸とした、より意義のある活動に繋げるための基盤整備を進めてきたい。

- ①ネットによるオンラインセミナー告知・決済プラットフォーム先の検討、及び契約。
- ②上記の告知・決済の体制が整った時点で、ネットとネット以外の媒体での告知も開始。
- ③防災アロマセミナーの依頼先 (行政、教育関係、民間団体、企業など) に向けた広報活動。
- ④セミナーで使用する資料や画像制作、及びホームページの内容の充実を図る。
- ⑤団体の活動継続のための収益化に向けた物販などの検討。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長沼地域の復興をスポーツで元気にする「がんばろう長沼」支援事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北 (026-296-9918)
事業区分	地域協働の推進・地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	713,500円 (うち支援金: 570,000円)

事業内容

- ながめま三代交流ペタンクフェスタ(7/5,2/12,2/17,2/18)
長沼地域全・大町・赤沼・赤沼北 (総計 110名)
- 令和2年度長沼大運動会(9/12 長沼小学校体育館 計 70名)
住民自治協との共催でニュースポーツ体験運動会
- 長沼小学校の子ども達が遊べるプロジェクト(9月～毎週)
地域の子どもたちに声をかけ、様々な運動遊びを体験させた。
- 長沼小・柳原小・古里小の合同育成会イベント(1/30 20名)
東北中千曲体育館にてポッチャ交流
- バスケ魅力発信事業(2/15 60名)
信州ブレイブウォリアーズコーチ2名によるクリニック
- 信州ブレイブウォリアーズブースターを増やす事業
 - ① チューリップ球根植え(11/30 柳原体育館周辺)
 - ② ブレイブウォリアーズ試合観戦(1/24,1/31 計 67名)
 - ③ ブレイブウォリアーズ講演会(3/13 計 100名)



【ブレイブウォリアーズ講演会】

【目標・ねらい】

- ① スポーツの力を活用し、長沼の復興を後押しする。
- ② 子どもたちへ運動の時間と場の提供をする。
- ③ 長沼住自協が連携し、多角的な交流事業を醸成する。
- ④ プロスポーツと関わり、新たなスポーツの楽しみ方の広がり期待したい。

※自己評価【 B 】

【理由】 コロナ禍で事業の縮小を余儀なくされたが、参加した住民や子どもたちからは皆で集まって楽しくスポーツをして元気になったという生の声が聞かれたこと、住民自治協議会が積極的に協力してくれたこと、ブレイブウォリアーズに好意的に対応していただき予想以上に盛り上がったことを含み、予定していた効果は十分に得られたと考える。

事業効果

- 1・2に関わる事業
ペタンクフェスタ、運動会は、気軽に住民が集い、楽しむことが必要だと、参加した住民の声が聞かれた。また、自分たちで用具を購入してこれからも継続したいという地区もあった。
- 3・4に関わる事業
災害、コロナ禍で、運動する機会や場所が持てなかった子どもたちが、一緒になって運動や遊びを楽しむことで、心身の健康の向上につながった。
- 5・6に関わる事業
年代や地域を超えて一緒に指導を受けたこと、ブースターを募っての観戦や講演会を開催したことにより、ブレイブウォリアーズを通じて、地域の仲間と一緒に盛り上がり元気になるという意識が高まった。

今後の取り組み

- 1・2に関わる事業
コロナ禍で、住民が集うことができない状況が続くと考えられる。大きな集会ではなく、少人数の地区ごとの集会等であっても、長沼地域全体が共通の意識を持って取り組めるような企画を検討し、実施していきたい。
- 3・4に関わる事業
小・中の学校間連携は、バスケットボールの活動を基盤とし、子どもたちがより多目的な交流活動に発展できることを示しながら、更に連携が持てるような企画を立てていきたい。
- 5・6に関わる事業
信州ブレイブウォリアーズが地域に根差した活動を大切にしていることと関連づけ、今年度のような観戦や交流ができる企画を考え、地域活性化策としても広く関心を持てるような取り組みをしていく。将来的には、北信地域の総合型地域スポーツクラブとの連携を図りながら、バスケットボール交流を進めていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	スキマ信州プロジェクト 2020
事業主体 (連絡先)	Skima 信州 メール: skima@skima-shinshu.com
事業区分	⑧ その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,734,340 円 (うち支援金: 1,387,000 円)

事業内容

①スキマ講座

第1回「今だからできる!地域発の「観光プロモーション」講座」

第2,3回「“想い”を伝える地域のPR動画を作ろう講座(撮影編)(編集編)」

第4,5回「地元発信クリエイターに学ぶ! SNSを使って地域を発信講座・SNSやブログにも使える写真の撮り方講座」

第6回「ビジネスにつながる! 「地域の宝」の見つけ方講座」

②フリーマガジン Skima 第2号の発行

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・全6回の地域講座には新型コロナウイルス流行下にも関わらず、ソーシャルディスタンスを保った状態でのほぼ最高である計62人を動員した。また昨年度と比較するとほぼ全参加者が新たな参加者であり、新たな市民発信者を養成することができた。

・フリーマガジン発刊に際しては、昨年度の講座参加者1名が講座で学んだことを活かしてフリーランスのライターとなったため、その方に記事を執筆していただく場を提供した。昨年度～今年度と2年間でみたときに独立した情報発信者が生まれたこと、そしてその方が学んだことを還元できる場を提供できたことは大きい。また今年度の講座に参加した人の中でも、2名がフリーマガジンで地域の魅力を発信する記事を執筆した。昨年度は1名だったため倍の執筆者を養成できたことは大きい成果である。

・フリーマガジンの全体的な執筆者に関しても、9人の地域で活躍する人々に関わっていただくことができた。昨年度が6人であったため人数を増やすことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・来年度は元気づくり支援金事業を行わない予定だが、2年間継続した地域の情報発信講座において要請した情報発信者とのネットワークを今後は有効活用し、Skima 信州の Web 上で長野地域の情報や長野県全体の魅力を協働で発信していきたい。

・2年間の地域講座に参加していただいた人の中には、行政関係者や観光局関係者もいたため、ここでの出会いを機会にこれまでに移住に地域がかかえる観光情報発信の課題に寄り添いお互い Win-win な形で連携していきたい。

・フリーマガジンの発行を通して培った紙面的情報発信のノウハウは、Skima 信州の主たる活動である Web 上での情報発信にも応用できるため、より幅広い年代に閲覧してもらえるサイト作りを意識していきたい。また元気づくり支援金を活用しないが、来年度以降もなんらかの形で紙媒体は発行したいので2年間でそのための礎を築くことができた。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【講座の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域の情報発信者を増やす
- ②学ぶだけでなく実践もセットで
- ③地域協働での発信
- ④ふるさとを大切にすることを育む

※自己評価【A】

【理由】

・新型コロナウイルス流行下の講座開催であったが予想以上に多くの方にご参加いただけた。またフリーマガジンも昨年度の約1/5倍のページ数のものを発行できた。